

The Tokyo Tanuki Times

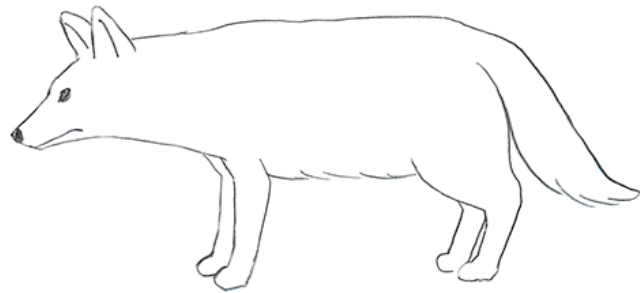
東京タヌキタイムズ

2013年11月号 通巻59号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2013

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

白いタヌキの出現確率 捕まってしまったら不幸な待遇に…



鳥取県まで行けませ
んでイラストで描
いてみました。色を
塗らなくていいので
らくちんです。体色
が無くなると、もは
やイヌにしか見えま
せん。そう、タヌキ
はイヌ科なのです。

2013年10月、鳥取県で白いタヌキが捕獲されるというニュースがありました。

白いタヌキは珍しい？

白いタヌキは珍しいということですが、どれくらい珍しいのか計算してみましょう。

まず、日本国内のタヌキの生息数を推測してみます。ニホンジカの生息数は261万頭(環境省、2013年発表)、ツキノワグマは約1万5千頭(環境省、2011年発表)です。タヌキはクマよりも生息範囲が広いので、クマよりも多いでしょう。しかし植物食動物のシカよりも多いことはないでしょう。よって、クマとシカの間程度の生息数だろうと推定できます。おおざっぱには10万のオーダー(10万頭～100万頭)と考えられます。

東京タヌキ探検隊！のデータベースでは、白いタヌキは4件記録されています(今回の鳥取県の事例も含む)。いずれもメディアで報道された

ものです。この内の1件が東京都23区内のもので、東京都23区内のタヌキの総記録数(2013年10月現在)は約1100件ですので、おおよそ千頭に1頭という確率です。白いタヌキは目立つので発見されやすい(=報道されやすい)ことを考慮すると、実際には数千～数万頭に1頭程度の出現率だろうと予測できます。

タヌキの総数を10万頭、白いタヌキの出現率を1万分の1として計算すると、現在日本には10頭の白いタヌキがいることとなります。これは低めの見積りですので、さらに数倍はいるのかもしれませんが。全国に数十頭という数はけっこう多いようにも感じますが、実際に白いタヌキを探すとなるとかなり難しいでしょうし、捕獲できる可能性はさらに低いでしょう。そう考えると今回の捕獲は非常に珍しい事例と言えます。

タヌキを飼うなら良い環境で

今回捕まった白いタヌキは連日、イベントで展示されることになりま

した。ところがタヌキは狭いケージに入れられて展示されているのです。見物客からは距離を置いたり、展示時間を5時間までにしたり、大声を出さないよう注意したりしているとのことですが、ケージの狭さは改善してくれないようです。さすがにこれではかなりストレスがたまりそうです。県はさっそくグッズを作ったりしてはしゃいでいますが、その前に飼育環境の改善をお願いしたいところです。ようやく10月末になって動物園での受け入れが決まりましたが、最初からそのつもりなら展示する必要はまったくなかったはず。展示するならば少なくとも動物園レベルの飼育環境は整えてもらいたいものです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>